

建築社会システム部門 ―パネルディスカッション (2)

安心安全の建築企画 (続編)

[資料あり]

9月12日(火) 13:30~17:00 オンライン 第K室

司会 野澤英希 (愛知工業大学)

副司会 生川慶一郎 (京都美術工芸大学)

記録 阪田弘一 (京都工芸繊維大学)

1.主旨説明 増淵昌利 (増淵昌利建築安全研究所)・高井宏之 (名城大学)

2.主題解説

①減災に向き合う建築企画の原理

室崎益輝 (神戸大学名誉教授)

②建築の耐震性と BCP (事業継続計画)

山浦晋弘 (安井建築設計事務所)

③先進的な防火・避難計画の事例とその誘導方策

吉村英祐 (大阪工業大学)

④安心・安全と建築デザインの見える化

藤村龍至 (東京藝術大学)

⑤コメンテーター 岡部明子 (東京大学)

伊藤明子 (住宅リフォーム・紛争処理支援センター)

3.討論

4.総括と展望 高田光雄 (京都美術工芸大学)

5.まとめ 所 千夏 (アトリエ CK)

発注者の不十分な建築企画が原因と考えられる事故が後を絶たない。建築は注文生産品で同じ条件の場合ではなく、一般の人が発注者(建築主)として複数回経験を積むこともほとんどない。よって、建築知識を持たない「アマチュア発注者」による「欠陥建築」の発生リスクが消えない。そこで、建築専門家による発注者をサポートする「建築企画支援技術」が重要となるが、支援を受けるまでには一定の時間が必要であり、そもそもアプローチしない(できない)場合もある。

このことから、一般の人が新たな建築を求める時の思考と行動を「建築企画」と広く捉え、学生や一般の人が建築専門家のその知識に容易にアクセスすることができれば、今後発注者となった場合に「欠陥建築」の回避が期待できる。これを実現すべく、建築の基本である

「安心安全」をキーワードに昨年は「建築主と専門家との信頼構築、火災安全性能の見える化による企画・設計、ユニバーサルデザインからの危ないデザイン回避、脱炭素社会に向けた地域建築の可能性、ポストコロナの新建築企画、建物の安全性と生活文化の継承の両立」を議論した。

今年は「減災に向けた建築企画のあり方、建築の耐震性とBCP（事業継続計画）、防火・避難計画事例から見た誘導の方策、安心・安全と建築デザインの関係」と新たなテーマで議論を深めつつ、これらの成果を建築初学者や広く社会に発信する方策を話し合いたい。